

## 4 学会発表要旨

### 4-1 保健研究部

#### (3) 蛍光 RT-Multiplex PCR 法による食中毒等集団感染事例からの下痢症ウイルスの検出

(東久保靖, 久常有里, 谷澤由枝, 重本直樹, 高尾信一, 田中智之<sup>\*1)</sup>, 野田衛<sup>\*2)</sup>, 福田伸治<sup>\*3)</sup>, 平成 24 年度日本獣医公衆衛生学会 (中国地区) (2013 年 10 月, 鳥取市), 第 88 回麻布獣医学会 (2013 年 11 月, 山口市), 平成 25 年度日本獣医師会学術学会 (2014 年 2 月, 千葉市)

2010 年 10 月～2013 年 4 月に発生した食中毒等集団感染事例 43 事例における有症者便 123 検体を用いて, 10 種類の下痢症ウイルスを 3 つのプライマーセット (A:NoV G I, NoV G II, サポウイルス (SaV), アストロウイルス (HAstV), B:アイチウイルス (AiV), ボカウイルス (HBoV), パレコウイルス (HPeV), C:A 群ロタウイルス (RVA), C 群ロタウイルス (RVC), アデノウイルス (AdV)) に分けて, ウイルス毎に異なる色の Alexa 蛍光で標識した蛍光標識プライマーを用いた RT-Multiplex PCR 法 (蛍光 RT-M-PCR) により対象ウイルスの検出を試みた。

既知検体を用いて蛍光 RT-M-PCR を実施したところ, 各ウイルスの増幅産物を蛍光色及び増幅サイズで識別することが可能であった。食中毒等集団感染事例 43 事例中, NoV G II によるものが 36 事例 (83.7%), NoV G I, SaV 及び RVA によるものが各 1 事例 (2.3%), 不検出が 3 事例 (7.0%) であった。また, 7 名の有症者からは原因ウイルス以外に複数のウイルスが検出された。

蛍光 RT-M-PCR は, 各ウイルスの増幅産物を蛍光色及び増幅サイズで識別することが可能であり, 視覚的に判定が容易であった。10 種類の下痢症ウイルスの検査が包括的に実施できることから, 食中毒等集団感染事例のスクリーニング法として有用であると考えられた。また, 7 名の有症者では, 原因ウイルス以外の下痢症ウイルスも検出されていることから, 重複感染の可能性も考慮して検査を行う必要があると思われた。

\*1) 堺市衛生研究所

\*2) 国立医薬品食品衛生研究所

\*3) 広島文教女子大学